

日本書紀訓考

關四郎太註解

三

475
1530
3.





日本書紀訓考三卷

越後國柏崎 關四郎太謹撰

神代上二之卷

伊弉諾尊伊弉冉尊立於天浮

橋之上共計曰底下豈無國歟

迺以天之瓊此日努矛指下而

○日本書紀訓考三卷

○一



探之カキセグリタマフニ是獲アラウナバラナリキ滄溟ホコノサキヨリシタ、ル其矛鋒滴瀝之

潮凝成一嶋名之曰礮馭盧嶋シホ コリテシマト ナルコナヲ オノゴロシマトイフ

此紀の癖クセみて、於是オカおど此字を多く用ひツカひたる。此始
みかゝる字を置オカれざりし何や、と古事記コトワザに此
始モトは於是天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱
神修理固成是多陀用弊流之國賜天沼矛而言依賜也
と有り、下、一書ふ此御言此コト無てハ聞えされども、此
紀上本文コトふ天神と云、事ハ省れされバ、此を伊弉諾伊

非冊尊二柱の御議定ミハカラヒとて書れしあり○立テ於天浮
橋之上、浮橋ウキハシと云、古事記傳四此八丁ハチジョウふ、天と地との間
かかれし橋あり、空ウツに係ツケれる故、榊ササギと云、物モノもや何ナニもむ、和
み、浮橋ウキハシと云、空ウツに係ツケれる故、榊ササギと云、物モノもや何ナニもむ、和
抄道路具ササギ、榊ササギ、郭クワク知チ云、榊ササギ音低、和名加波カハ、波ハ之、木橋キハシ所
以ヨリ登ノボり、高タカ唐韻トウオン云、棧セキ音兼、一音賤、訓同上、板イタ木キ、構カウ險ケン為ナリ道ミチ也
と有り、下七卷十八丁ふ、登ノボり、給タマふ言コトふ、神カミ車クルマ雖モト高タカ我ガ能ノ為ナリ為
五イハレ十ト瓊ユキ敷シ命ノミコト大オホ中ナカ姫ヒメ命ノミコト宜ヨシ給タマふ言コトふ、神カミ車クルマ雖モト高タカ我ガ能ノ為ナリ為
志シ志シ志シ後ノチ撰セン集シユ集シユ戀コイ二ニ人ヒト妻メケ心ココロ也ナリ此コト證シを榊ササギと加カ邪ヤ波ハ
危ヤシきと、此コト終ハシり、今日イマこを嶺ミネの花ハナの拵ツクリらぬ、足タラシ引ヒキの山ヤマの掛カケ
橋ハシふ、此コト終ハシり、今日イマこを嶺ミネの花ハナの拵ツクリらぬ、足タラシ引ヒキの山ヤマの掛カケ
さ、此コト時トキ天アメの成ナリ終ハシり、今日イマこを嶺ミネの花ハナの拵ツクリらぬ、足タラシ引ヒキの山ヤマの掛カケ
て滄溟ソウメイふれば、土ツチ造ツクリ日本ニッポン紀キ葦アシ牙ガ木キ居イ大オホ平ヘイ説セツふ、浮橋ウキハシ
たる行ユキ渡ワタらる、物モノも何ナニも、就ツキて浮ウキる、天アメ磐イハ船フネ
處トコロへ行ユキ渡ワタらる、物モノも何ナニも、就ツキて浮ウキる、天アメ磐イハ船フネ

と云、物と同状の物あるべし、云云、橋とをかり云、板
まどの如く何れも物を入る形、ちみり、さるを
云、名も亦や何れも人を渡す用、船とも橋とも云
し、まらむ、今世、み、大船へ渡り、ゆく小船を、さし船と
云、ありと何れも、天、磐船、此、訓考十六卷、橋の上方、天
六丁、み、云、如く、云、此、説、宜しと思、橋の上方、天
小係りて、下方、支る物無きを、浮橋と云、あるむ、是
古事記傳の丹後國、風土記、與謝郡、郡家、東北隅、方有
説と同、速石郷、此、里之海、有、長、大石、前、長、二千二百二十九丈、廣
或所九丈以下、或所十丈以上、廿丈以下、先名、天、擗、立、後
名、久志、濱、然、云、者、國、生、大、神、伊、射、奈、藝、命、天、爲、通、行、而、擗
作、立、故、云、天、擗、立、神、御、寢、坐、間、伏、云、云、又、播、磨、國、風、土
記、小、賀、古、郡、益、氣、里、有、石、橋、傳、云、上、古、之、時、此、橋、至、天、八

十人衆上下往來故曰八十橋をど見也、以上の説、釋紀
五の六丁は出
神名帳、阿波國美馬郡天橋立神社有り、此橋を波志
と訓事、古事記傳廿の二丁に見え、伊勢集、音、小
ま、く、天、の、ち、た、て、は、た、上、の、宇、間、と、訓、浮、橋、の
て、及、ば、ぬ、戀、も、我、の、も、る、う、飛、上、の、宇、間、と、訓、浮、橋、の
上、方、を、る、べ、し、此、字、の、間、と、訓、橋、の、邊、と、云、意、不
就、て、云、ば、擗、の、如、き、物、み、あ、ら、ぬ、船、と、云、物
の、状、を、る、べ、し、古、事、記、此、字、を、ま、り、釋、る、り、ま、て、立、せ
多、々、志、と、訓、事、の、古、事、記、此、の、訓、立、云、多、々、志、と、有、小、依
り、多、志、と、知、を、延、て、○、其、字、の、捨、べ、し、此、を、訓、は、く、ど、○、底
下、こ、り、上、橋、の、天、ふ、く、語、給、ふ、故、云、如、此、書、れ、し、る、べ、し、
古、能、志、多、と、訓、べ、し、今、本、の、訓、○、豈、字、も、捨、べ、し、○、無、國
歟、ハ、國、那、那、牟、也、と、訓、べ、し、こ、ハ、下、一、書、み、天、霧、中、と、何

れば、雲霧の如き物障て、分明うらざりけむ、されば如
此の詔賜ふをり、此也の疑言をり、古事記ふて上ふ引
る古事記ふ、多陀用弊流之國と、未と國土と云物の
を、此時五れども、出来後、名を以て、其始やもうく國
との語傳へ、同傳四、あゝの成竟、天ふ准て、國との詔
賜へるをり、さく此御詞の下ふ詔賜比互と讀添べし、
の七十一丁不出、○以天之瓊矛天と云言を、る物
の上ふ添て呼事、古事記傳四丁、御孫命の天降、坐
御物、又御從の神等の取々持し、物ふと、凡て天よ
り降、和し物多し、其時、此國の物と別ちて、天の物
を、天の某々と呼し、さて後、此國ふて、然云け
る、物も、彼、天の物の製さゆふる、へるを、然云け

ら、又轉る、何とぞ、小稱、出瓊矛、古事記ふ、
云りと思はる、も、あふり、と、出瓊矛、古事記ふ、
天沼矛と書り、是と、同傳四丁、玉を常と述と訓べ、其
あふべ、出、以、表と訓事、一、卷ふ云り、○瓊玉也、此曰、努
と、何、瓊、字、此、紀、ふ、訓、注、無、ふ、何、處、も、余、と、訓、り、
その古より然訓り、故を、此、此、字、を、其、余、と
訓む、此、恐、何、り、如、此、注、せ、れ、さ、む、○指、下
而、指、と、此、と、定、り、く、矛、を、下、給、ふ、り、總、て、佐、須、と
云、辞、の、皆、此、格、を、り、○探、之、漢、文、の、方、に、加、幾、佐、具
利、給、閑、婆、と、訓、べ、し、此、の、雲、霧、の、如、き、中、を、矛、も、攪、探
給、ふ、を、云、や、れ、ば、加、幾、と、云、言、を、讀、添、べ、し、古、事、記

と訓べし、上の宇之保ハ、下九卷五丁ノ海水と是ハ海
 鹽ヲを常志保と比み云、同傳九一丁ノ古事記
 此段ハ、鹽許表呂許表呂と有る古言ハ、疑堅ま
 るべき汁の意ナリ、食鹽ハ、潮よりと有る、一と之ハ
 捨べし、○礮馭盧嶋ハ、私記ハ、自疑之嶋也、猶如言自疑
 也と有る、古事記傳四十三ノ古事記ハ、許表呂許表呂
 積成レ故ハ、許表呂出、淡嶋ハ、同傳四ノ三十六
 呂切レ故ハ、許表呂出、淡嶋ハ、同傳四ノ三十六
 小ありと出、此並み有りと有る、さく礮ハ、伊牟の音
 たりと、於能不用られしハ、詳々ナド、古事記曰、故二
 柱、神立天、浮橋而指下其沼、矛以畫者、鹽許表呂許表呂途

畫鳴而引上時自其矛末垂落之鹽累積成嶋是於能基呂
 鳴と有る、上、文、大、坐、考、伊、非、諾、伊、非、丹、尊、の
 代ノ神等皆等し、有る、凡、此、神、坐、有、潮、瀟、瀟、瀝
 矛を給ひ、御身ハ、大、坐、其、雄、柱、以、爲、乘、炬、と、有
 泉國ハ、出、坐、取、湯、津、ハ、大、坐、其、雄、柱、以、爲、乘、炬、と、有
 此、其、雄、柱、を、御、頭、小、補、給、ひ、御、身、を、思、ひ、奉、り、
 又、素、戔、鳴、尊、昇、天、と、云、溟、渤、以、之、鼓、盪、岳、爲、之、鳴、
 此、則、神、壯、健、使、之、然、也、と、有、神、性、の、健、き、の、
 て、ハ、思、ひ、御、身、ハ、大、坐、其、後、此、尊、ハ、丘、谷、ハ、
 湯、津、ハ、御、身、大、坐、其、後、此、尊、ハ、丘、谷、ハ、
 一、箇、少、男、云、大、己、貴、神、取、置、掌、中、之、高、皇、產、靈、尊
 云、今、世、人、ハ、御、身、大、坐、其、後、此、尊、ハ、丘、谷、ハ、
 日本書紀訓考三卷
 〇六

アガミハヒタリヨリナガミハミキリヨリタクリアヘトシタマヒテメクリマシ
 左旋陰神右旋分巡國柱同會トモニ
アヒマス トキニイザナミノミコトマヅ
 一面時陰神先唱曰熹哉遇可アナニエヤウマシヲトコラ
エツトノリタマヘバセウナムコラバ
 美少男焉トコトイフ鳥等孤云陽神不悅イザナギノミコト
アガミ曰吾是男子理當先唱如何婦ナガコト
サキ人反先言乎事既不祥宜以改メケルベシト
ダテルハアサハズカレアラタメ

イリタマヒテ
 旋於(是)二神却更相遇(是)行也タマフ
トキニイザナギノミコト
 陽神先唱曰熹哉遇可美少女アナニエヤウマシヲトメヲエツトノリタマヒ
テ焉セウ少女此コレバ云云因問陰神曰汝身イザナミノミコトニナガミハイカニ
ナレルトヒタマヘバ鳥等咩アガミハクボミトコロアリトマヲレ
 有何成耶對曰吾身有一雌元タマヒキイザナギノミコトノリタマハク
 之處陽神曰吾身亦有雄元之ハオコルトコロ

處思欲以吾身元處合汝身之

元處

二神於是、於是を初、不加礼と訓、次、二神を布多波志良能神と訓べし。○降居彼嶋、彼嶋ハ、曾能志麻と訓、即、礮馭盧嶋なり、又降居ハ、阿毛利坐と訓べし。此言古事記傳四十六、天、下の切り、古言の名なりと出。○因ハ捨べし。○共爲夫婦、此、上、る、欲、字、ハ、下、共、ハ、美、登、夫、婦、ハ、麻、具、波、比、爲、ハ、志、豆、と、訓、べ、し、美、登、ハ、古、事、記、傳、四、御

云、り、と、何、れ、と、云、こ、の、違、合、を、云、處、な、久、煩、美、斗、古、呂、此、久、煩、美、古、呂、の、五、言、を、省、云、り、こ、の、女、の、陰、處、の、窪、き、を、指、言、ち、り、猶、下、云、を、合、又、麻、具、波、比、ハ、古、事、記、傳、四、廿、六、麻、具、波、比、ハ、物、二、ガ、善、き、惡、き、と、出、○欲、産、生、洲、國、ハ、久、余、宇、美、奈、佐、牟、登、於、毛、保、志、豆、と、訓、べ、し、奈、佐、牟、ハ、生、字、を、訓、事、上、二、考、云、り、奈、佐、牟、ハ、爲、成、み、と、作、と、云、同、ト、ま、く、洲、字、ハ、捨、上、の、欲、字、ハ、返、る、と、訓、べ、し、古、事、記、み、爲、生、成、國、土、と、何、り、○便、ハ、曾、能、と、訓、○國、中、之、柱、柱、ハ、訓、注、ハ、依、べ、し、さ、紀、中、ハ、天、神、皇、胤、ハ、附、た、る、物、ハ、此、を、例、と、し、美

と云、言を添へ讀べし、此美稱美なる言かり、さく下
一書みち、云云、嶋名曰、破取盧嶋、二神降居彼嶋、化作八
尋之殿、又化堅天柱、と云、古事記みち、是於能基呂嶋於
其嶋天降坐而見立天御柱、見立八尋殿、と有り、其理ハ
聞えさる、此ハたゞ以破取盧嶋爲國中、之柱と何
り、違へる趣あり、是を古事記傳四十二、先、天御柱
といハ尋殿の柱あり、此ハ趣異なり、が如く、なれども、
彼嶋の成る、此殿の柱を立づ、基の成る、みち、其基
小柱なれば、同事なり、と有り、凡そ此紀ハ、勤王漢文ハ
此段、ふとい、字をも文をも略れたり、又柱を云、事ハ
故、皇國文ハ訓む、みち、心を勝るべし、

下小柱を行廻給ふ、大禮を申段あり、故、初、其を
立給ふ事を先、云置るなり、と有り、さく、天と云、
國柱と有り、上あり、云、さく、此、紀ハ地を主と爲給
ひ、故あり、○陽神、此ハ如此書れ、ハ、此、二柱、神より、
男女ハ體見え、初坐たるを以、男神ハ當、表加美と
詠、ハ、むの事なり、べ、れど、古書ハ御名を略、云、
事、無れば、鎮火祭、祝詞ハ、神伊佐奈、伊佐
岐と訓べ、さく、神字を書れたま、と、紀中ハ此神の由
給へり、處ハ皆尊と有れば、美舉等と訓、古事記ハ、
り、下小詔給波久と讀添、と、○左旋ハ、下、一書、妹

自左廻ると、復巡柱陽神自左、古事記も、汝者自右廻
 逢、我者自左廻逢をどあるふ依、比陀利與利廻利阿
 波牟と訓く、此下ふ、登詔賜比互と云、辞を讀添べし、さ
 ら左と云、言意ハ思ひ得を、通證ニの廿丁、左ハ日足
 又廻ハ、前繆車繆車ハ、上比前を切たる言なり、万葉十
 七卅四丁十八九丁、安利蘆野米具利をど見也、又阿
 波牟ハ、柱を廻く、前みく行逢給ふなり、下廿九卷三
 下、伊勢物語十、忘るるよ間ハ雲居ハ成ぬとも、空行
 月ノ廻逢きく、古事記傳四丁廿三、凡夫婦遣合の初、
 先柱を行廻事、上代の大禮と見えたり、此ハ其男女遣

合の初みく、先此禮を行ひ賜ふ事ハ、甚々深き理何
 る事をもべし、されど其理ハ傳無れば、凡人の如何と
 と測知るべきふあふれとあり、○陰神ハ、伊弉丹尊を
 指く詔賜ふ處なれば、奈賀美波と訓べし、人を指く奈
 と云ハ、古事記傳四丁廿三、上代の歌、那兄、那泥、汝妹、那と
 汝尊ハ、人ハ、皆那を本とし、上代ハ、然らば、其本ハ、下
 さまの人も、の云、ども、いと上代ハ、然らば、其本ハ、下
 む人ハ、も、云、稱なり、己、夫を汝と云、事、古事記、沼
 河比賣の歌、又須勢理毘賣の歌、と見え、建内宿祢
 の歌、美古と申せりと出、○右旋分ハ、左旋分、左與
 那賀美古と申せりと出、○右旋分ハ、左旋分、左與
 と訓たり、ま、此の分、字ハ、下分、巡と書れたれ、右
 旋、字ハ、下の如く、讀るれども、次、米具利、坐と讀み、右
 巡、字ハ、下の如く、此の分、字ハ、捨、美礙利、與利、廻、阿、閑

と訓べし、下一書小、約束曰、妹自左、巡、吾當右旋、此の左
り、古事記小と、詔汝者自右、迴逢我者自左、迴逢かど何
り、此の漢文小、學く、多、さく美礙利と云、言の意と思ひ
得ねども、通證二、見、限也とあ、天地の初より、左の重
く右の輕き方なりべし、な、下、其重き左の男、輕
き右の女、値り、左を重くする事、古事記、御身、
小、次於、投棄左、御手之手、纏所、成神名、與疎神云云、次於
投棄右、御手之手、纏所、成神名、邊疎神云云と見え、
を、同傳六、五、丁、小、左の御手纏小成、三神を與と云、右
此小成、三神を邊と云、與の海の奥、邊の海邊、常

みと對云かり、さく左を與小當り、師説、万葉九、
吾妹兒者、久志呂、余有奈武、左手乃、吾與手、余纏而去、麻
師乎とあり、即此意なりと云れ、是、依、左、手を與
手とさく、さく右の邊なる事、又、萬事を先
右の手、爲と、邊此意を、何り、左、與、
如しとあり、是、與、重きとさく、され、重き、男
小當りなり、○國柱同三字、捨べし、○會一面、今本
り、よ、登毛、余阿比坐と訓、○陰神、上の陽神、准、
伊弉那、美能尊と訓べし、○唱、登、那、比、と、訓、字、な、れ、と、
捨べし、○意哉、此、云、阿、那、而、惠、夜、と

何れも依り訓べし、此辞、古事記傳四丁廿八阿那何
さし當り切ら思ふを阿那云云と云、下三卷大醜此
云、鞆奈、赤、依、句と云、万葉ふり多く痛と書り、而れ、亦
り、惠、夜、の、な、る、添、出、○遇可美少男、可美、宇麻時と訓
る、上二、訓、考、二、卷、丁、廿、七、出、少、男、訓、注、烏、等、狐、と、何、る、名、意
り、古事記傳四丁廿九、松の落葉一丁十五、つと、み、あ、る、如、く、
表登来み對る、稚く盛なるを云、さく通證二丁一、小
津子なりと云れし意も、男子の凡るを云、事なり、
男子の凡るを返りて云、衣、能、古、万、葉、ふ、壯、士、と、も
み、訓、考、六、卷、二、十、四、丁、廿、一、万、葉、ふ、壯、士、と、も
書り、さく此、下み、表と云、辞を讀る、遇り、曳、都、と、訓、べ
し、宇、流、を、曳、と、云、り、下、八、卷、丁、六、古、事、記、子、天、若、日、か、と、み、見

は、是、ハ、流、を、略、す、常、み、宇、と、と、云、ハ、其、を、通、ハ、と、云、る
なり、此を同書み、阿那途夜志愛表登古表と何り、此
御詞どもの神代より傳はりし中み、いと愛なき
御言なれば、平田氏亂、篤、ハ、是、を、歌、の、初、か、る、べ、と、云、れ
たり、○不悦二字捨る、○吾より廿二字のいと讀惡き
を、年月考へ、まづ是、宇、ハ、捨、る、吾、男、子、ハ、阿、賀、美、と、訓、る、
伊弉諾尊御自を云給ふなり、先、宇、の、言、ハ、上、訓、考、一、卷、
み云、理、當、唱、ハ、伊、布、倍、幾、事、奈、流、余、と、訓、又、婦、人、ハ、伊
弉册尊を指し詔賜ふなれば、那賀と訓べし、さく先言
乎、陰神の意哉云云の御詞を答り賜へり、そ、を

古事記傳四廿四、先男女交合の状、男の上、女の下、有る地、
天の如く、舎あまの屋の覆が如く、女の下、有る地、
載る如く、舎あまの屋の床の如く、云々と何さ如く、男
の何事も初、あまの女の後、なると、天地の初より定りと
る事あま、上の七代比神等、古事記あま、宇比地、
妹須比地、
陰神の先言ハ不祥と此事なり、此不祥を、古事記
り、傳あまの布佐波受と訓べし、
何り、又宜以改旋ハ、加礼阿良多采廻倍志と、加礼と
云、言を添、と讀べし、抑上あま云、さ如く、古事記あま、伊

邪那美命、先言阿那那夜志愛表登古表、後伊邪那岐命、
言阿那那夜志愛表登賣、各言訖之後、告其妹、曰、女人先
言不食云云、於是二柱神議云、今吾所生之子不良、猶宜
自天神之御所、即共參上、請天神之命、爾天神之命、以布
乃麻途、
何り、天神比御言、さ、此處あま、伊弉諾、尊比御言
といせら、
事既、又以字やどの皆捨べし、○於是二字、○却字も、
加間利坐と訓時ハ、古事記の如き、天へ上り、却坐り、
二神却而更相、
○日本書紀訓考三卷
○十四

廻阿比給布と訓べし、この上の不祥を惡く廻直し給ふなり、古事記も、更往廻其天之御柱如先と有り、さて更り亦と云、と同言との聞ゆれども、少異なり、物言へる餘ふ物、よ初、ふ爲し事を爲る、云、なり、源氏物語、何るを云、
語、更反りくと有り、と初、へ返りくと爲る、云、なり、
○是行二字捨る、○陽神の上、登幾介と讀添、○先唱二字、唱、の中、陰神の處、あ捨る、○少女の訓注有り、意、上の少男、ふ同く、小津女、みく、雅く盛なるを云、
林、なり、
○陰神、ハ、伊邪那美能尊と訓事、上、云、ふ、○何、ハ、伊

加介 ○對曰、次の有、よ、麻表志給比幾と訓べし、
雄元之處、ハ、久煩美杼古呂と訓べし、
を古書、ハ、保登見、ハ、多ク、と、美登、と、ハ、久美杼、と、ハ、何る、
ハ、皆此、久煩美杼古呂を惡く略る、云、
とも云、り、ハ、竹取物語、ハ、か、ゆ、と、茂、三重、ハ、志、と、り、
云、云、上、ハ、久杼、を、何、け、く、と、有り、ハ、和名抄、燈、火、ハ、文字、
集略、云、
云、
ハ、せ、
ハ、火、
云、
○日本書紀訓考三卷
○十五

了、今、俗、御、祭、年、子、又、於、陰、處、を、古、の、聞、多、名、カ、レ、ト、
 〇、吾、身、元、處、の、上、に、加、礼、と、讀、添、元、に、於、古、流、と、訓、〇、汝、
 身、之、元、處、元、こ、り、久、煩、美、と、訓、べ、し、と、く、此、の、文、汝、身、
 之、と、何、を、見、れ、ば、吾、身、の、下、に、之、字、脱、し、た、る、べ、し、
 マサムト

コ、ニ
 於是陰陽始遘合爲夫婦及至

シ、テ、マ、ヅ、ア、ハ、ジ、シ、マ、ヲ、エ、ト、シ、タ、マ、フ、ニ、フ、サ、ハ、ズ、オ、モ、ホ、シ
 産時先以淡路洲爲肥意所不

ケ、ル、ユ、エ、ニ、ア、ハ、ダ
 快故名之曰淡路洲迺生大日

ト、ヨ、シ、ツ、オ、ム、コ、レ、バ、ヤ、ト、マ、ア、キ、ツ、シ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ
 本日本此云耶麻豐秋津洲次

イ、ヨ、ノ、フ、タ、ナ、ノ、シ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ、ツ、ク、シ、ノ、シ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ
 生伊豫二名洲次生筑紫洲次

オ、キ、ノ、シ、マ、ト、サ、ド、ノ、シ、マ、ヲ、フ、タ、ゴ、ニ、ウ、ミ、マ、レ、キ、ヨ、ノ、ロ、ト
 雙生隱岐洲與佐度洲世人或

フ、タ、ゴ、ヲ、ウ、メ、ル、ハ、コ、ノ、ユ、エ、ナ、リ、ツ、ギ、ニ、コ、シ、ノ、シ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ
 有雙生者象此也次生越洲次

オ、ホ、シ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ、キ、ビ、ノ、コ、ジ、マ、ヲ、ウ、ミ、マ、シ、ツ、ギ、ニ、コ、レ、ニ、ヨ、リ、ア
 生大洲次生吉備子洲由是始

起大八洲國之號焉即對馬オホヤシマクニトイフナラグツケニケルカレツレマ

壹岐嶋及處々小嶋皆イキノシママタトコロクノラジマハミナ是潮沫シホノアワ

凝成者矣コリテナレルモノナリ亦曰水沫マツミヅノアワ凝而成也コリテナレルトモイフ

陰陽の布多波志良能神と訓べしき、此陰陽と書れし、撰者の意も、上の如き訓ら、又ハ女男神とあ訓し、めむと、此事か、るべりれ、漢意の餘著、後世人、上の陽神陰神、又此、此字共、何、了、就、て、皇國、め、と

古より有、事と癖心得、事々、注釋を、のしけ、る、い、つ、う、ゆ、さ、多、事、み、ぞ、有、け、る、此、事、ハ、古、事、記、傳、ハ、往、々、云、れ、又、葛、花、玉、勝、間、髻、華、山、蔭、神、代、正、語、等、ハ、と、辨、ら、れ、た、り、○、遵、合、ハ、今、本、美、登、能、麻、具、波、比、と、訓、り、美、登、と、ハ、上、ハ、云、る、久、須、美、處、の、久、須、の、二、言、を、畧、き、と、事、ハ、女、の、陰、處、を、り、然、れ、バ、遵、合、を、美、登、と、ハ、云、難、し、こ、ハ、麻、具、波、比、と、訓、れ、云、く、理、ハ、聞、え、と、り、古、事、記、傳、四、の、廿、九、丁、ハ、彼、不、成、處、と、成、餘、處、と、宇、麻、久、比、阿、布、を、麻、具、波、比、と、訓、を、り、云、を、り、と、阿、布、と、云、た、美、阿、比、坐、と、訓、を、り、云、を、り、と、阿、布、と、云、り、古、事、記、此、の、次、ハ、如、此、言、意、而、御、合、生、子、と、云、と、り、次、々、ハ、見、え、た、り、猶、訓、考、ハ、卷、十、八、丁、ハ、云、と、云、れ、と、今、本、の、古、き、訓、を、依、る、古、事、記、ハ、と、爲、美、斗、能、麻、具、波、比、と、あり、又、大、穴、牟、遲、神、ハ、上、比、賣、小、如、先、期、美、刀、阿

多波志都と見え、此紀二、あり幸之を、ミトアタヒマス
と假字付せり、是らハ男の陽物を、女の窪處クハミと與ふ
美刀ミタ此下ふ、途ツと云辞を添、る意を合、る見、るべし、其
與ヨと云證ハ、下二、卷二、彦火火出見、尊豊吾田津姫を戀
さ給ふ御歌、佐祢耐サネノ捷ト茂阿黨アノタカ播怒介ハシカ茂譽モヨと何
と、十四、卷四、天皇與ニ一夜ト、與終宵ヨスダラと何、皆
男より與ヨと云事、ふ、其ハ彼、窪處クハミ介ケと云、意、なる事を
志シるべし、○始ハジメ此コト此字を置れたるハ、實マコト此二字、柱、神
此、適合を始、給ひたれば、理コトを有、ける、○為夫婦、為、
下シ至シり返り、志シ豆マメと訓、夫婦此二字、捨スべし、ハ

漢文、小書、皇國、言ハ、男女、不當、誦、ノ、事、を、
後、世、爲、禮、後、夫婦、成、と云、夫婦、ハ、音、布、宇、布、と
云、り、此、夫婦、ハ、皇國、言、ハ、夫婦、ハ、元、來、夫婦、ハ、米、あり、さ
も、夫、布、宇、布、と云、音、ハ、云、ハ、其、物、の、替、て、夫、と、婦、を、攝、女
○及、字、ハ、漢籍、多、く、何、り、一、錢、取、れ、此、紀、ハ、殊、小
多、く、用、わ、れた、き、と、凡、々、何、々、及、と云、ハ、漢籍、讀、な、れ
バ、此、を、始、て、皆、捨、べし、此、及、至、産、と云、登、ハ、當、て、讀、て
何、ま、り、多、く、何、を、皆、捨、べし、及、至、産、と云、登、ハ、當、て、讀、て
至、同、く、言、意、ハ、老、び、か、る、と云、意、ハ、用、ハ、書、ハ、イ、ウ、チ、と云、
ハ、於、由、此、カ、カ、至、と云、於、與、此、と書、ハ、イ、ウ、チ、と云、
ハ、萬、葉、十、九、の、卅、丁、ハ、意、伊、豆、久、我、未、と云、ハ、イ、ウ、チ、と云、
ハ、出、老、著、ハ、同、略、解、ハ、後、於、與、受、初、と云、ハ、イ、ウ、チ、と云、
ハ、を、於、與、受、初、と云、ハ、同、於、與、受、初、と云、ハ、イ、ウ、チ、と云、

○日本書紀訓考三卷

○七

云云、今吾所生之子不良云云、御合生子淡路之穂之狹
別と有り、然るを此淡路洲と有り、同記下、一書
淡嶋と有り、名此似た依故、誤一ハ何一々一、然
きハ次の曰、淡路洲と有り、路、字を行ハるハべシ、如此云
故ハ、淡路洲ハ國と云、了ハ大きハなる嶋なり、淡嶋ハ仙覺
万葉集抄撰ハる寛喜此頃ハ有リ、と見えハ、其後ハハ體
々ハ々ハ々ハを思ハハ、甚ハ小ハき嶋ハなりハ、されハハ胞ハと云
了ハ此、淡嶋ハ依ハハ、下一書ハハ、淡路洲ハ大八洲此
内ハ入リ了處三、有り、又未、一書ハハ、云云、爲夫婦生淡路
洲、次、蛭子と有り、古事記ハ依ハハ、淡洲と淡路洲

云云、今吾所生之子不良云云、御合生子淡路之穂之狹
別と有り、然るを此淡路洲と有り、同記下、一書
淡嶋と有り、名此似た依故、誤一ハ何一々一、然
きハ次の曰、淡路洲と有り、路、字を行ハるハべシ、如此云
故ハ、淡路洲ハ國と云、了ハ大きハなる嶋なり、淡嶋ハ仙覺
万葉集抄撰ハる寛喜此頃ハ有リ、と見えハ、其後ハハ體
々ハ々ハ々ハを思ハハ、甚ハ小ハき嶋ハなりハ、されハハ胞ハと云
了ハ此、淡嶋ハ依ハハ、下一書ハハ、淡路洲ハ大八洲此
内ハ入リ了處三、有り、又未、一書ハハ、云云、爲夫婦生淡路
洲、次、蛭子と有り、古事記ハ依ハハ、淡洲と淡路洲

登と訓ハハ、古事記曰、故爾反降更往迴其天之御柱如
先ハ改ハ廻ハ給ハひハ、と云、於ハ是伊邪那藝命先言阿那夜
志愛表登賣後伊邪那美命言阿那夜志愛表登古如
如言竟而御合と有り、此趣なり、○以淡路洲爲胞、此
誤ハ、ハ、又傳の異ハハ、依ハハ、古事記ハ云云、雖然久美
度途興而生子水蛭子、此子者入葦船而流去、次生淡嶋

と誤れりなり、又の一書あり、先以淡路洲淡洲爲胞と
あり、淡と云、名小依り、淡路洲を添書し誤りあり、
又の一書あり、以淡路洲爲胞、生大日本豊秋津洲、次淡
洲とあり、淡路洲と淡洲と置處違へあり、是も誤
なり、
嶋爲胞生淡路洲云々とあり、
洲の名義ハ、古事記傳五丁四阿波國へ渡り海路あり
出、又胞ハ、胎内な胎子を包て有、物を云なり、
俗、下二卷、截其兒、臍とあり、臍ハ、和名抄身類、
四聲字苑云、臍、和名保曾、俗云倍曾、腹孔とあり、臍よ

り續き出、物なり、されば臍緒とも云なり、
三十五丁云、七の三十九丁み、胞衣を隠埋り事、
れ、
○意所不快ハ、古事記傳四丁み、布佐波受於毛保志
祁利とあり、從、又髻華山陰あり、是より下淡路洲
まど十一字、或本細書あり、
曰二字捨べし、○名淡路洲と云事ハ、淡洲と云、名を誤
り書れりなり、其故ハ、淡洲の名義ハ、古事記傳四丁、御
親神の淡め惡給ひ、故なりとあり、淡路洲の名、
義と違ひなほ、其淡洲比義あり書れたればなり、○

事ハ、や、後の事ナレども、必^ズ神代の此初りの由^ヨ緒^ニ
 關^ル事^トこそおおもれ、又越洲ハ海を隔^テた^リ洲^ニ
 と^テ何^レぞ^カふ^ル別^ニ入^リたる^トい^フ、是^ハ今^ノ世^ノ
 奥^ノ津^ノ輕^ノ中^ノの事^ト云^レル^ト云^レル^ト是^ハ今^ノ世^ノ
 ハ、今^ノ此^ノえ^ガが^ガ嶋^ヲを^云と^云、事^ヲを^思ひ^定む^ル、
 淡路洲ハ胞^トと^モさ^スむ^ルあり^有、此^ノ數^ヲ入^レざ^レども、後
 一^ノ國^トと^建ら^レる^ル、是^ト入^レべ^キ事^ナり、
 是^トと^云ハ、本^ハ淡洲^ノの事^ナり、
 名^ニ似^タる^ルか^ク紛^レる^ル傳^ハあ^ラべ^キ、
 又^モ本^書一^書何^レを^皆豐^秋津^洲を^ハ淡^路洲^ニ繼^グ
 初^メ舉^ゲら^レた^ルハ、若^ク撰^者の^心を^考へ^テひ^きめ^ル

ら^ズ、古^事記^ハ、秋^津嶋^ハ終^ル、生^給つ^レば、此^ノ多
 く^シ一^書ど^の中^ニ、此^ノ洲^ハ終^ル、生^給ふ^ルと^云、何
 る^ベき^カ、然^レ云^フ、一^カあ^ルく^テ皆^同く^初め^る疑^ハ
 〇對^馬嶋、對^馬二^字あ^つて^都志^麻と^訓す^ル、
 嶋^ノ字^ヲを^添え^られ^た、誤^ナり^し事^モ、名^義と^古事^記傳^五
 十九^ノ、^韓國^ノ往^來の^船の^海上^ノ説^ハ、
 見^得た^ル故^ニ、彼^皇后^ノ名^ヲ付^給ひ^し、
 〇對^馬嶋、對^馬二^字あ^つて^都志^麻と^訓す^ル、
 皆^洲字^ナら^ず、此^ノ壹^岐嶋^ノ字^ナら^ず、
 〇日本書紀訓考三卷

る乎の阿ふさふ事と〜さう〜りみ改め給ひ〜よ
のあらうきゆり、さく上ふ云、事み依、鳩字の捨〜
下皆同ト古事記曰、生津嶋亦名、謂天之狹手依比賣と
阿、大八洲國の内ふ入、此の二の一書と同ト、
○壹岐嶋の同傳五十八、辛國へ渡ふ、先此島を留
出、此説の上對馬の古事記み、生伊伎嶋亦名、謂天比
登都根と阿、國の内なり、此嶋の初ふ對馬の
後、阿、國體と然り、此ふ替さずみ舉られたり、
記、依、壹岐島、○及ハ、麻多と訓べし、○小島の表
男對馬の女なり、古志麻と訓ひ誤、阿、古志麻との
辞麻と訓べし、古志麻と訓ひ誤、阿、古志麻との

附、を云く、鳩の名なり、此の嶋を云、阿、鳩の名ふ
り、阿、又上の大八洲の対、を表と云、古の例
○是、如此、さすの是、漢文書ふせり、れ〜皇國
文、阿、ざれば、捨、事下皆同ト、○潮沫、凝成者、矣、
志保能阿和能古利豆奈礼流毛能奈利と訓べし、古史
の、シホナワと訓れ、ハ、アの切ナ、ハ、ハ、ハ、ハ、
ど、シホナワと云、例を見、さ、シホナワと云、ハ、
の、切ナ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
聞、つ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
の、如、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
訓、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
嶋、祭、祝、詞、ハ、鹽、沫、能、留、限、と、見、ゆ、さ、く、上、ふ、阿、大、八、洲
ハ、伊、弉、諾、伊、弉、冉、二、柱、神、の、産、坐、さ、く、國、と、云、ハ、是、な
り、是、を、疑、え、然、る、ハ、阿、ト、思、ふ、ハ、後、世、意、なり、を
ハ、其、上、ふ、違、合、と、阿、事、皇、國、を、産、坐、む、と、く、の、事、ハ

關（開）れりよ、先國を生坐（坐）る、天の如く神等此、此の對
 坐（坐）々處を設置給ひ、後、神をば生坐（坐）し、此の對
 馬を初め處々の小嶋（嶋）に、二柱、神を生坐（坐）る、此の對
 天地の初より、漂蕩（漂蕩）渥（渥）ふ潮交（交）る有（有）り、下へ沈著（沈著）と土
 となり、又其渥（渥）の凝重（凝重）り、厚き處の嶋となり、なり、
 されば古事記傳五（五）廿八（廿八）も、ある必（必）し、小嶋（嶋）は
 みる限（限）ごう、大八洲の外（外）なるを皆如此（如此）云（云）ふ、
 ば、其中より大きき島を多く、何（何）ぞか、されば皇國
 小屬（屬）る嶋のみ、何（何）ぞか、諸（諸）の外國をも、大きき島を小
 き、茂云（茂云）に、皆此中と、きなり、何（何）ぞか、後總（後總）と
 の外國に、皇國も准（准）と、久（久）余（余）と、云（云）なり、又潮沫と書れ

一、彼浮居（浮居）渥（渥）を沫（沫）と心得（心得）るの事か、又、實（實）の潮の
 凝（凝）し、あも何（何）ぞか、猶（猶）訓考二、卷十五丁を合せ、見（見）る、
 漢國（漢國）に、皆戰敷意（戰敷意）なり、と心得（心得）べし、と、何（何）ぞか、強言（強言）なり、
 ○亦曰（亦曰）に、今本大書なり、是（是）の本書も取れ、本（本）も、如此（如此）
 何（何）ぞか、一を書れたま、異説（異説）なり、されば亦曰（亦曰）に、何（何）ぞか、
 今細書（今細書）と、何（何）ぞか、一、平田（平田）氏の、此（此）、八字、一本、○
 水沫（水沫）の、字の如く訓（訓）べし、是（是）と、美那（美那）和（和）と、訓（訓）べし、是（是）、
 万葉十一の、都を略（略）き、能阿（能阿）の、反奈（反奈）る、水（水）の、都を略（略）く、
 此詞（此詞）の、水（水）の、都を略（略）き、能阿（能阿）の、反奈（反奈）る、水（水）の、都を略（略）く、
 多あり、三尾（三尾）と云（云）、地名を、万葉（万葉）も水尾（水尾）と書（書）る、何（何）ぞか、例（例）り、
 但（但）し、此時（此時）に、皆潮（皆潮）なり、と、つけれ、水（水）と云（云）、何（何）ぞか、

されば此亦曰の皆捨べきかり神名帳小伊豆國田方
郡白波之弥奈和

命神社と云あり

一書曰天神謂伊弉諾尊伊弉
丹尊曰有豐葦原千五百秋瑞
穗之地宜汝往脩之迺賜天瓊
戈於是二神立於天上浮橋投
戈求地因畫滄海而引舉之即
碓叡盧嶋二神降居彼嶋化作

八尋之殿又化豎天柱陽神問
陰神曰汝身有何成耶對曰吾
身具成而有稱陰元者一處陽
神曰吾身亦具成而有稱陽元
者一處思欲以吾身陽元合汝
身之陰元云爾即將巡天柱約
束曰妹自左巡吾當右巡既而
分巡相遇陰神乃先唱曰妍哉
可愛少男歟陽神後和之曰妍
哉可愛少女歟遂為夫婦先生

○日本書紀訓考三卷

○三十

蛭兒ツクミ便カレ載ア葦ハ船フネ而ナ流レ之キ次ツ生ハ淡マ
 洲マ此コ亦モ不コ以ノ充ニ兒イ數ス故カ還ア復レ上カ
 諸ク於マ天マ具ニ奏フ其ノ狀ヲ時ニ天マ神カ以フ太マ
 占ニ而ウ卜フ合テ之ニ乃チ教フ曰ク婦メ人ノ之ヲ辭コ
 其サ已ダ先レ揚リ乎ヲ宜ニ更ニ還レ去ラ乃チ卜フ定ム
 時ニ日ニ而シ降リ之ヲ故ニ二ニ神ニ改メ復ス巡ル柱ニ
 陽ニ神ニ自ラ左ニ陰ニ神ニ自ラ右ニ既ニ遇フ之ヲ時ニ
 陰ニ神ニ後ニ和シ之ヲ曰ク妍ニ哉ニ可ク愛ク少ク女ニ歟ニ
 歟ニ然レ後ニ同ニ宮ニ共ニ住ミ而シ生ル兒ニ號ス大ニ
 歟ニ

日本ヤ豐ト秋ア津ツ洲マ次ニ淡ア路チ洲マ次ニ伊イ
 豫ヨ二ニ名ナ洲マ次ニ筑ツ紫シ洲マ次ニ隱イ岐キ三ミ
 子コ洲マ次ニ佐サ度ド洲マ次ニ越コ洲マ次ニ吉キ備ビ
 子コ洲マ由ユ是シ謂フ之ヲ大ニ八ハ洲マ國クニ矣ニ瑞ズ
 此コ云フ弥ミ圖ト妍ム哉ニ此コ云フ阿ア那ニ而シ惠ヰ
 夜イ可ク愛ク此コ云フ哀ア太ト
 占シ此コ云フ布フ刀ト磨ル爾ニ

天神古事記あり、於是天神諸命以云云、猶宜自天神之
 御所即共參上請天神之命爾天神之命以云云とあり
 天神と此の天神も同傳ふ天之御中主神高御産巢日

神カミ神カミ產ムスビ巢スベ日ヒ神カミ宇ウ麻マ志シ阿ア斯ス訶カ備ビ比ヒ古コ遲チ神カミ天アメ之ノ常トコ立クナ神カミ
 此五柱を古事記に別天神とあるを云ふは、
 〇有トヨの捨アレ事ウ次チ云ク〇豊トヨ葦ア原ハラ千チ五イ百ホ秋キ瑞ミツ穂ホ之ノ地チ
 豊ホキの祝イハヒ言コト葦ア原ハラの古事記傳六丁廿四ふ大御國の名あり
み、高天原より出イ千チ五イ百ホ秋キを同傳十三丁三ふ年トシの多オホク
云ふ瑞ミツ穂ホを其處ココふ稲穂を云ふ出イざサく地チの久ク尔ニと
 訛ウソす、豊葦原の古事記天神御子御ミコ天アメ降ノ段ノふ豊葦原之千秋長
 五百秋之水穂國者云云、下三卷丁一ふ豊葦原瑞穂國大
 殿祭祝詞ふ萬ヨロ千チ秋キ乃長秋ナガキ尔ニ大八オホヤ洲シマ豊トヨ葦ア原ハラ瑞ミツ穂ホ之ノ國クニ
 乎云云、又葦原と云ふのり、上の豊の添、云ふ言を古
せ、多くを省く云ふ

事記夜見段と建御雷神ふ、葦原中國者此紀ふを此卷
 十九丁二卷一丁三丁七丁九丁三卷丁五六卷丁十萬葉二
 廿七丁長歌ふ、葦原能美豆保國乎をどあり、千五百秋ハ
 瑞穂之國也、上引る中あり是彼あり、さき、警華山陰
 ふ、古事記ふ、此處是多陀用幣流之國とあるを、
 記さきた後、後の號を初廻らしたるは、常事
 あれども、此國号似つら、齒と國ありと、瘴事あり
 久、此説の如くすれば、有字のの事あり、瘴事あり
 をあはべ、又瑞字、物の稚くみづ、身を言ふ
 ふ、其言ふ當る字無れば、借、書れ、此字の義

ハ阿トドト、博識云レたり。○宜汝往脩之、宜汝往ハ、阿
麻久太利互ト訓ベシ。古事記あり、此ハ此文ハ略レタ
ク、彼記ハ略レタ、此ハ此ハ文あり、懸カチ、
故、按、備之、宜汝往トあり、此ハ漢文ハ、
素戔嗚尊自天而降、
到於出雲國、歟之川上、万葉十八、丁、
豆保國乎、安麻久多利、見也、又備之、
聚國史、元々集神宮、古本、今改、
固成是多陀用幣流之國トあり、文法、
勢と訓ベシ、國脩ト云事、同傳四、
クリカタムと訓ベシ、備、字、
シラスと訓、事、あり、

出、○二神ハ、布多柱能加美と訓ベシ、○天上浮橋、上ハ
本書ハ、天、浮橋、之、上、トあり、此、上、も、橋、の、下、有、
一書、漢文ハ、書レ、
投、戈、求、地、ハ、漢文、
一、本書、
書、
下、
小、
畫、
れ、
意、

言ふと云、言ひるを、漢文の爲不省れり、此の如く、今本
 言ふ當り文ナシテと訊れど、滄海を古事記の如く、詐表
 是をカキナシテと訊れど、滄海を古事記の如く、詐表
 呂途を給ふふりやまふべりきと云、たが滄海をな
 きてと云、何物ふあり給ふと云、事な○之、登幾と訊
 けき、此ふナスと云、當らば云、○之、登幾と訊
 ○即ハ捨べ、○戈鋒の下、與利と讀添○垂落之潮
 志多々流志保と訊、落之二字ハ捨べ、古事記曰
 於是天神諸命以詔伊邪那那岐命伊邪那美命二柱、神修
 理固成是多陀用幣流之國、賜天沼矛而言依賜也、故二
 柱、神立天浮橋而指下其沼矛以畫者、鹽許袁呂許袁呂
 途畫鳴而引上時、自其矛、未垂落之鹽累積成嶋、是於能
 碁呂嶋○化作八尋之殿の之捨べ、古事記み見

立八尋殿と有り、同傳四丁八尋ハ、二の約りたり、言
 長さを云く、一廣クニ出、化作之神と云、化生
 廣げの意を多べ、出、化作之神と云、化生
 此、神の成、坐、處、り、化、奈、流、と、訊、い、ま、き、を、此、不
 此、化、又、次、の、化、豎、り、ど、の、化、ハ、八、尋、殿、ヲ、奈、流、天、柱、ヲ、奈
 流、あ、と、思、ふ、人、り、多、り、り、美、多、豆、と、訊、べ、此、美、も、其
 處、見、送、り、と、云、見、視、の、を、云、行、を、云、り、と
 出、さ、く、見、と、云、ふ、化、字、次、を、書、き、一、ハ、此、段、ハ、神、代、の
 初、も、と、云、べ、け、れ、初、殿、柱、を、建、給、つ、事、を、以、之、の、事
 初、も、と、云、べ、け、れ、初、殿、柱、を、建、給、つ、事、を、以、之、の、事
 久、さ、く、髻、華、山、蔭、ふ、柱、を、先、ふ、殿、を、後、ふ、云、べき、事、を、も
 久、さ、く、髻、華、山、蔭、ふ、柱、を、先、ふ、殿、を、後、ふ、云、べき、事、を、も
 久、さ、く、髻、華、山、蔭、ふ、柱、を、先、ふ、殿、を、後、ふ、云、べき、事、を、も

地をどの如くを伝ふ此の並文なる後先とせよき
 一の如く又と云字あれば、天柱を先不讀むの
 〇陽神陰神の訓の上丁ふ出、さく陽神の上不、加
 礼と讀添べし、〇二の神の下此問、まゝ曰ハ、下の成耶
 より返、く讀べし、〇有、何成耶ハ、古事記も如何成と
 有り、同傳四丁廿一、伊迦奈那礼流と訓、女神の成調
 たる形状を、いゝを傳ふと、男神の間給つるなりと出
 〇俱成而ハ、古事記ハ、成成と有る不依、く訓べし、同傳
 四不初、成初より漸々成、成終れを云、なりと
 出、〇称陰元者ハ、久煩美孺古呂と訓、今本メノハジ
 した、〇一處、二字ハ、この陰元者の漢文不引れ、書れ
 たるものなるべし、これを此陰元ハ、

二處とも、捨べし、〇称陽元者ハ、於古流登古呂と訓
 き物かれハ、捨べし、〇思、欲以吾身陽元合汝身之陰
 元、本書ハ、陰陽の字あり、陽元陰元の訓の上も同ト、
 吾の上不、加礼と讀添べし、〇爾ハ捨、〇即ハ、麻多、〇
 約束曰ハ、智岐利賜比互と訓べし、智岐利ハ、古事記此
 紀、卷廿五丁二、卷十一丁十、期、まゝ要、字を訓り、さ
 六、卷一丁廿四、卷十三丁
 〇此、言古言ちるべし、れども万葉やぐハ見えん、古今
 集より此方ハ多く有る詞あり、言、意ハ、智ハ、誓の智ハ、
 水、ぎ、天、ぎ、る、あ、どの、岐、流、と、〇妹ハ、奈波と訓べし、華
 同、詞、の、溢、る、事、を、る、べし、〇妹ハ、奈波と訓べし、華
 山、蔭、ハ、次、段、一、書、み、を、我、愛、之、妹、と、有、る、類、凡、く、妻、を、妹
 と、云、ハ、古、言、ち、れ、ど、も、漢、文、ハ、ハ、い、ら、ぬ、此、紀、凡、く、妻、を、妹

をりく修 くれたれど、折々の取、るづ、う、
 ふ古言の字、を、言の交、家、り、下十四、卷、ふ、
 と、あ、る、處、み、稱、妻、爲、妹、蓋、古、之、俗、乎、と、云、ふ、注、は、古、言、を
 と、を、げ、ふ、云、を、一、つ、漢、文、ふ、つ、つ、な、れ、な、る、い、う、な
 る、云、ま、ま、を、若、う、注、せ、む、と、あ、る、べ、あ、い、う、な
 注、ま、ま、事、を、れ、た、く、後、を、う、こ、ふ、あ、る、い、う、な
 と、り、○巡、ハ、米、具、利、阿、閉、○當、右、巡、右、ハ、上、の、自、左、と、
 る、ふ、依、る、下、ハ、與、利、と、讀、添、當、巡、ハ、米、具、利、阿、波、牟、と、訓
 ぶ、○既、而、分、三、字、捨、る、○相、遇、ハ、阿、比、給、布、登、幾、と、訓
 ○乃、○唱、ハ、捨、る、○妍、哉、可、愛、ハ、下、ハ、訓、注、あり、さ、る、本
 書、ハ、の、意、哉、遇、可、美、と、あ、る、處、ハ、髮、華、山、陰、ふ、是、ハ、一、つ、と
 く、や、む、と、と、を、き、唱、和、の、御、詞、み、く、歌、の、類、な、れ、ハ、一、字
 小、讀、違、ふ、甲、乙、事、を、る、故、ハ、古、事、記、あり、阿、那、途、夜、志

愛、云、云、と、歌、此、如、く、假、字、書、を、家、を、此、ハ、假、字、書、を、
 さ、家、だ、ふ、あ、る、ふ、遇、字、を、さ、添、ら、れ、た、多、ハ、ソ、の、み、を
 也、一、書、ご、も、み、何、ハ、遇、字、ハ、な、き、を、正、し、と、云、れ、又
 此、ハ、本、書、の、意、哉、と、下、一、書、の、美、哉、ハ、此、の、妍、哉、ハ、皆、古
 言、ハ、一、つ、を、字、を、種、々、ふ、替、る、書、れ、た、な、り、と、され、ハ
 何、を、も、同、く、此、の、訓、注、の、如、く、訓、ぶ、き、を、り、其、み、と、り、
 此、訓、注、ハ、本、書、ハ、有、り、事、上、ハ、云、ふ、如、く、而、惠、夜、ハ、
 ハ、途、夜、志、下、三、卷、み、ハ、妍、哉、此、ハ、歌、奈、夜、と、あり、又、本
 是、ら、い、き、の、異、あ、れ、と、意、ハ、何、み、と、も、同、事、あり、又、本
 書、の、可、美、ハ、此、の、可、愛、ハ、下、一、書、の、善、ハ、是、又、古、言、ハ、一
 づ、り、皆、延、と、訓、べ、又、本、書、の、焉、字、ハ、此、の、殿、字、是、又、同、
 事、あり、下、一、書、み、ハ、此、助、字、あり、

又同凡々同古言を、うく、いり、いふ文を替られたるに
此、紀の常なりと有り。○和之二字の捨る。○遂に、袁閑
互、○爲夫婦の、本書あり、始、違合爲夫婦と有り、
色と、此ハ外、美登能麻具波比志互と、むむ、○蛭
子、古事記あり、水蛭子と有り、同傳四五丁、水蛭子似
た、依兒を云、る名有り、纂疏、水蛭、名、此、神、初、此、御子
の、稱と心得る、非事なり、生、六、根、不、備、似、此、虫、形、此、御子
その、手、足、を、と、無、く、見、る、形、似、と、云、る、意、何、ゆ、べ、
不、雖、已、三、歳、脚、猶、不、立、と、有、る、み、と、ら、バ、手、足、を、と、も、有
れ、と、弱、く、凡、々、と、有、る、が、似、と、云、る、み、と、ら、バ、手、足、を、と、も、有
る、と、し、と、有、る、前、説、ハ、纂、疏、に、依、れ、し、を、依、り、和、名、抄
虫、身、部、ハ、本、草、云、水、蛭、和、名、比、流、此、契、冲、云、蛭、ハ、痺、虫、と

有り、と、出、さ、る、此、御子、末、一、書、あり、淡路洲、此、次、あり、
又次、本書あり、月、神の、次、あり、是、ハ、リ、コ、ク、傳、さ、る、此
御子の、稱と心得る、非事なり、と、古事記傳あり、
就、按、ふ、何の、傳、を、御名を、洩、せ、し、を、り、○載、葦、船、流
去、此、文、蛭子の、事を、何、と、云、る、事、を、く、如、此、不、意、出
さ、し、し、ハ、心、得、む、古、事、記、も、同、ト、云、る、次、本、書、ハ、古、事、記
も、と、此、子、者、入、葦、船、而、流、去、と、有、り、同傳、四、入、葦、船、ハ、阿
志、夫、祢、と、訓、べ、し、葦、を、多、く、艸、と、云、る、ト、云、る、此、御子、を、如、此
流、去、賜、へ、る、ハ、た、蛭、に、似、た、ゆ、故、に、惡、し、し、棄、給、へ
る、なり、と、有、り、○之、ハ、捨、る、○淡、洲、既、ハ、出、仙、覺、万、葉、集

抄、讚岐國、屋嶋去、北百步計、有嶋、名曰阿波嶋とあり
 と出、○不以充兒數不充、伊礼受、又以、余と訓べし、
 古事記傳四、是ら子を子此數不入、不良とく、淡
 惡く給へる故なりとあり、古事記曰、告其妹曰、女人先
 言不良、雖然、久美度途、興而生子、煙子、此子者、入葦船而
 流去、次生淡嶋、是亦不入子之例、此文の上下、上、○還復
 上詣於天、天、余還上坐、互と訓、復と詣り捨べし、○
 具、麻都夫佐余と訓べし、同記の御歌、神、麻都夫佐
 途とあり、同傳十一、こゝ落事無く、備れ意なり
 と出、○時、古々余、○以太占、以、余と訓べし、同傳四

三十一、太占と云、辞、布か、言、麻余、如何、出、上代
 の一種のト、諸のト、比中、殊、重く主とせ、ト
 と聞え、とあり、○ト合、古事記、ト相とあり、
 同傳、宇良閉と訓べし、万葉十四の七、丁、武藏野、余
 良、閉、余、上代、余、萬の政、余、已、ケ、は、ク、一、ラ、を、用、余
 ぎ、定、余、き、事、を、余、皆、ト、テ、神の御教を請、行、賜、ひ
 一、事、を、り、と、出、○上の而、下の之、乃、捨、べし、○婦人之
 古事記、余、女人とあり、同傳四、三十、表、美、那、余、と、訓
 る、下の表、語の調を助むとあり、とあり、表、美、那、余、女
 人の通、余、男、對、云、余、云、辭、其、已、先、揚、乎、ハ

本書サキダチコト先言サキダチコト乎古事記サキダチコト先言サキダチコト而サキダチコト有サキダチコト不依サキダチコト言先サキダチコト
立志シテ故コト奈利ナリと訓べし。○宜ヨシハ捨ス之ヲ。○還マシ去リ降ル之ハ、本書
改アラタ旋シ下ニ、文ヲ改メ復ス巡ルと云フ、古事記ヲも、改アラタ言ヒ之ヲと有ル
不依ル、還カヘ降リ互ニ改メ言ヒと訓ス、下ニ登リ詔ヲ賜ヒ比ヒ幾キと讀ム添ベ
し、こノト合ハ不レ惡シき御ミ子コ生シ坐スるハ、婦メ人ノ之コト言ハ先サキ立チ故コトを
れバ、其ノ言ヲを改メ、之ヲ國ヲと作ツ固クめビ、善キ御ミ子コを生シ坐ス
すハと係レて詔ヲ賜フ之ヲと有ル。○乃ト定メ時ヲ日ノ而シテ六ノ字ハ
捨ベし、生坐給ぬぬ、時日と云、ベキ事やをある、此、
此ノ文ハ不レ莫シ惑シひキを警メ華ニ山ノ蔭ニ、此ノ事ハ、此、此、事、ハ、ト、キ、漢、文、ノ、
潤シ色ナリ、是レノ文ハ、潤、色、ナリ、是、レ、ノ、文、ハ、あ、ま、り、な、る、事、を、う、と、り、
○改メ復ス巡ル柱ハ上ニ天ノ柱ト有ル訓ス不依ル改メ巡ルと訓ス、

復シ字ハ捨ベし。○自ヨリ左ヨリ自ヨリ右ヨリ上ニ男ノ神ハ右ニ女ノ神ハ左ニ
り、巡ルまハ之ヲ次第ニ違フるハ、天地ノ初メより男ハ左ニ女ハ右ニ
と定メりしを初メ度ハ其ハ違フ給フ故メ此ノ度ハ
其ノ巡ル状ヲ改メ給フは、其、巡、状、を、改、給、は、る、と、天、地、の、初、より、然、る、よ、て、
無ク、初メ度ハ不レ然シ巡ル給フと有ル、不レ良シ故メ、巡ル状ヲ改メ給フ
が、終ニ定メりしを改メ給フ、が、終、み、定、り、し、を、改、め、給、ふ、は、る、と、あ、る、分、別、が、こ、し、此、紀、古、事、
事ハ、古書ハ見ルと有ル、然レど男ハ左ニ女ハ右ニと有ル、事、ハ、古、書、ハ、見、る、と、有、る、然、れ、ど、男、ハ、左、女、ハ、右、と、云、
國ハ、皇國ハと違フ、此ノ紀ヲ注シ釋ス人共、國、ハ、皇、國、と、違、ひ、此、紀、を、注、釋、人、共、の、事、を、
雲ノ如ク見ル過ス、雲、ノ、如、く、見、る、過、さ、れ、し、ハ、疎、を、り、と、云、
右ノ下ニ米ノ具ヲ利シと讀ム添ベし。○既ニ遇フ之ノ時ハ、巡ル合シ賜フ

三、子と云、まゝとよはし出、○之ハ捨ざし、古事記ハ上の
を以て云、あるべしと
大八洲を生坐、其文、上處、然後還坐之時、生吉備兒嶋
亦、名謂建日方別次生、小豆嶋亦、名謂大野手比賣次生
大嶋亦、名謂大多麻流別次生、女嶋亦、名謂天一根次生
知訶嶋亦、名謂天兩屋、兩屋嶋、飛六嶋、
ハ、本書ハ一書あり、是ら此嶋ハ略れたり、此中ハ吉
備、兒嶋、又

一書曰、伊弉諾尊、伊弉冉尊、二
神立、于天霧之中、曰、吾欲得國
乃以天瓊矛指垂而探之、得礫

馭盧嶋則拔矛而喜之曰善乎
國之在矣

天霧ハ、アマノサギリト云、今本訓、此訓を見れば、天の
ハ字を略き書れ、辭、佐疑利の佐ハ、さ渡り、夜中
れバ、元より然なり、
さとの佐ふる、發語なり、此時ハ天ハ既ハ成就、彼漂
蕩物ハ底ハ沈ミ著て、世中皆大海をりけむ、其天地の
間、霧の如き物立渡りて高天原よりハ、然と見え、
まゝなり、○吾欲得國、ハ漢文例ハ書れたれば、字ハ
まゝなり、許能志多介母國阿流倍志登と訓

一、初、ふい欲得を麻賀武と訓ふ、吾國乎、或人云、此を
 阿比久余乎、卑牟と訓ふ、本有り、を、取れ、と、り、と、見、ゆ
 此事、然、然、訓、を、何、う、何、う、何、う、と、云、ふ、答、その、字、小、就、を
 改、め、書、む、と、い、ふ、字、を、當、ら、れ、し、ま、り、ま、き、を、漢、文
 書の、當、有、國、耶、又、の、一、書、小、蓋、有、國、乎、と、皆、字、を、替、ら
 れ、の、み、み、う、同、ト、文、あり、ま、き、其、處、の、訓、を、引、合
 せ、し、見、本、書、小、底、下、無、國、歟、と、何、家、小、と、い、ふ、天、原、の
 如、き、國、此、霧、の、中、小、有、べ、し、と、ま、り、○指、垂、り、本、書、小、指
 下、と、何、る、小、依、べ、し、○探、之、り、加、幾、佐、具、利、と、訓、事、上、丁
 小、出、○得、り、奈、利、幾、○則、り、加、礼、○拔、矛、而、り、其、奴、保、古
 乎、比、枳、阿、碍、豆、と、訓、る、上、一、書、小、盡、滄、海、而、引、舉、之、と
 何、り、○曰、善、乎、國、之、在、矣、り、與、幾、國、有、氣、利、登、能

利、給、比、幾、と、曰、へ、返、り、く、讀、乎、又、之、り、捨、べ、し、
 一、書、曰、伊、弉、諾、伊、弉、冉、二、神、坐
 干、高、天、原、曰、當、有、國、耶、乃、以、天
 瓊、矛、盡、成
 礮、馭、盧、嶋

高天原比下、天浮橋と云事を略れたり、○當有國耶
 古能志多余毛國有倍志登と訓べし、此訓の事、○乃
 加礼○以、毛
 知氏とよむべし、
 一、書、曰、伊、弉、諾、伊、弉、冉、二、神、相

謂曰有物若浮膏其一中蓋有國
 乎乃以天瘦矛探成一
 鳩名曰礮馭盧鳩

相謂曰、加多良比給波久と訓べ、万葉十三十五、
 愛妻跡不語五、五、尔保鳥能布多利那良毗爲加多良
 比斯云云、云と有り、さ、此、天、浮橋ふさの事、さ、
 し、其、文、上、一書と同く、略れ、有り、捨、
 若浮膏ハ、宇幾阿夫良能吳登久奈流母能と訓べ、此、
 一書ハ、神の成坐る事ハ、天、浮橋の事ハ、略れたり、
 ○蓋ハ捨、○有國乎ハ、久尔阿流倍志登と訓て、此、
 事

一書曰陰神先唱曰美哉善少
 男時以陰神先言故爲不祥更
 復改巡則陽神先唱曰美哉善
 少女遂將合交而不知其術時
 有鶴鷓飛來搖其首尾二
 神見而學之即得交道

上、其、下、能、利、給、比、豆、と、讀、添、
 云、加、礼、探、成、一、鳩、の、志、麻、比、登、都、加、幾、奈、志、
 給、比、幾、
 ○曰、奈、豆、氣、給、比、幾、と、む、
 皇國文 ○乃

此、一書ハ、下、此、少女、皆、上、出、
 ○唱、
 ○以、捨

て、○陰神の、袁美奈乎不當、又奈智 ○故、波と訓べし、
○爲、○復、○則、○先唱、○遂に捨べし、○將合交而交り、
上本書、不、違合と阿多不同、美登能麻具波比勢武登
志給開杼毛と訓べし、○不知其術、術、和謝と訓べし、
和謝とい、何あそを爲る事を云、古事記ふの態、字を訓
り、又不知い、志利坐謝利幾と訓べし、さく此、文不依、
交合をそ、術をそ、一召ど依と云、是、中、此紀の注
み、世、人も然思ふべけきども、然るも、い、下、
云、を見るべし、○時、古々余、○有、捨、○鶴、和、
名抄羽族、不、雀、禹、錫、食、經、云、鵜、字、或、作、鶴、和、名、余、波

久奈布里、日本紀私記曰、止豆木乎之間、止利、貌、似、鷺、而、
高、飛行、作、聲、者也、此、鳥、の、事、口、決、み、稻、負、背、鳥、也、と、云、り、谷、川、氏、も、古、歌、も、世、
此中、稻負背鳥、此、鳥、の、事、口、決、み、稻、負、背、鳥、也、と、云、り、谷、川、氏、も、古、歌、も、世、
いと云、り、稻、負、背、鳥、を、庭、に、さ、き、と、云、り、受、り、れ、ぬ、説、き、
打、聽、稻、負、背、鳥、を、庭、に、さ、き、と、云、り、受、り、れ、ぬ、説、き、
又、鶴、稻、負、背、鳥、を、庭、に、さ、き、と、云、り、受、り、れ、ぬ、説、き、
其、訓、以、奈、於、保、世、度、里、と、萬、葉、集、云、稻、負、背、鳥、
も、云、れ、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
此、鳥、家、近、く、來、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
不、似、鷺、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
云、鳥、今、世、不、聞、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
羅、と、云、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
良、袁、由、岐、阿、聞、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、
十二、の、四、十二、丁、又、士、滿、葦、牙、み、村、松、春、枝、と、云、り、人、の、説、も、

をくらしありと云ふは、鬱來る、此鳥和名抄、又見之、た、字鏡、不、鴨、弥、左、古、又、万、奈、柱、や、と、鴨、加、利、又、不、奈、柱、手、、不、奈、柱、多、と、何、此、時、既、天、柱、あ、と
き、と、詳、を、く、さ、、鳥、を、れ、、は、あり、此、時、既、、天、柱、あ、と
何、れ、水、、柱、不、を、、云、、ろ、、鳥、を、既、、化、出、一、、不、、こ、、を、
尾、こ、を、是、、ま、、ど、、化、注、者、等、是、、不、、依、、交、合、の、術、を、習、給、ひ
し、注、せ、保、、心、得、ぬ、事、を、、そ、、上、、不、、吾、身、元、處、合、汝
身、之、元、處、と、云、古、事、記、も、故、以、吾、身、成、餘、處、刺、塞、汝、身、
不、成、合、處、而、と、詔、賜、ひ、た、れ、バ、男、陰、を、女、陰、不、挿、入、賜、不
い、ろ、、召、、一、、け、、ぬ、、あ、り、さ、、と、、此、、み、を、如、、此、、何、、多、、い、
い、挿、入、了、事、按、、不、、挿、入、賜、ふ、の、、と、、み、、け、、の、御、子、を、生、坐、感
不、い、、何、、ふ、、じ、、概、、ふ、、い、、何、、ふ、、さ、、れ、、バ、、其、を、か、ふ、あ、く、不、思、ひ、廻、一、、給、ふ、内

不、此、鳥、如、、此、、を、、せ、、る、、を、、見、、そ、、あ、、れ、、挿、入、給、ひ、後、の
感動、揺、を、學、ひ、給、ひ、尾、、某、疏、も、、於、、是、、見、、揺、首、
交、換、、莫、、動、之、則、、精、、閉、、精、、閉、、則、、無、、子、と、何、、り、、さ、、と、、上、、不、、云、、了
如、き、、淺、、い、、か、、を、、事、を、云、、い、、愚、、を、、り、、と、、云、、人、、も、、何、、り、、あ、、む、
抑、麻、、具、、波、、此、、の、、事、、不、、云、、い、、不、、礼、、と、、せ、、一、、事、、を、、れ、、と、、然、、略
書、ど、、も、、不、、畧、、き、、云、、い、、不、、礼、、と、、せ、、一、、事、、を、、れ、、と、、然、、略
き、一、、故、、不、、終、、不、、此、、名、、不、、今、、の、、人、、を、、さ、、事、、と、、り、、不、
終、夜、、を、、と、、此、、余、、み、、此、、紀、、古、、事、、記、、と、、と、、不、、久、、美、、度、、途、、興、、而、、又、、與
ハ、古、、書、、と、、不、、見、、え、、と、、不、、就、、て、、云、、不、、書、、一、、つ、、れ、、バ、、今、、己
々、の、注、者、等、一、、條、、兼、、良、、公、を、指、、置、、て、、委、、し、、く、、書、、首、、尾、、と、、云、、事、、不
至、り、、を、、口、を、覆、、ひ、、筆、を、指、、置、、て、、委、、し、、く、、書、、首、、尾、、と、、云、、事、、不
り、一、、たり、、今、、己、、タ、、如、、く、、注、、ひ、、此、、後、、首、、尾、、と、、云、、事、、何、、の、益、也、
り、一、、き、、事、、を、、今、、己、、タ、、如、、く、、注、、ひ、、此、、後、、首、、尾、、と、、云、、事、、何、、の、益、也、
見、む、、人、、定、、て、、よ、、口、、決、、ふ、、は、、從、、自、、然、、之、、義、、也、、と、、云、、何、、の
爲、不、、揺、、首、、尾、、と、、云、、事、を、云、、又、、谷、、川、、氏、、の、、神、、而、、學、、於、、鳥、、豈
其、偶、、然、、乎、、と、、云、、い、、儒、、者、、意、、ふ、、一、、く、、人、、々、、知、、れ、、了、、事、、不
と、一、、向、、ふ、、云、、い、、故、、今、、世、、不、、一、、く、、人、、々、、知、、れ、、了、、事、、不

疑れども、此時此鳥の首と尾を揺を見、學ひ給ふ事、何
 り。○見而ハ美曾奈波志互と訊べし、古事記傳廿七十五
 丁、見志行波須の切りた言ありとあり、見志ハ見
 爲の爲の通へり、身ハ信へるを云事、波須ハ比
 を延へ云るなり、○學之ハ、曾乎麻奈毗互と訊べし、曾
 乎ハ之を訊るなり、又麻奈毗ハ、真ハ似をみ、其似を
 延へ云るなり、○即ハ捨べし、○得交道ハ、麻具波比能
 美知乎志呂志食氣流と訊べし、今本是をトツギノミ
 事記傳四の廿六丁ハ、處就をり、下の久を濁ハ、黃牛
 行ハ、例を云事、交合を云、云、云ハ、當ら、通證二の
 三十一丁ハ、玉木翁曰、交合之爲言、後嗣也、夫婦之道廣後

嗣爲要矣、とあり、後嗣ハ、トツギと訊との事、ハ、此後
 字を登と訊るを當ら、凡ハ上よりつゞく言の下、
 カサタナハ、マヤラリハ、阿の響、何と云、其次下の上
 小阿ハ、阿ハ、畧けた例ハ、多クあきと、言の上、阿ハ
 畧けた例、無きハ、後、字を阿登と訊る、其阿を略けたハ
 誤なり、又字の如く阿登と訊る、其阿を略けたハ、
 是ハ、交合、又阿と云、ハ、男ハ、交合、後ハ、云、事、
 是ハ、交合、又阿と云、ハ、男ハ、交合、後ハ、云、事、
 是ハ、交合、又阿と云、ハ、男ハ、交合、後ハ、云、事、
 此事の名、あり、何と云、れども、上代より云、と、來、自
 ら、此事の名、の如、を、れ、る、を、り、ま、く、得、字、ハ、漢、文、例、志、呂
 志米志祁流
 と訊べし、

一書曰二神合爲夫婦先以淡

路洲淡洲爲胞生大日本豊秋
 津洲次伊豫洲次筑紫洲次雙
 生隱岐洲與佐度洲次越洲次
 大洲次
 子洲

二神、此コ如カク此書れし、本書又上、一書ハ伊弉諾尊伊
 弉册尊とあるハ依ての事ヲるべし、按ハ、こノ又
 別書ヲれば、此上ハ御名ヲを書キまシ事ヲるを、略れしハ
 いハりハる書狀ヲり、若シ、此一書ハ此ノ事ヲみテ見ル時
ハ、此二神ハのハちハる神トとシて
ハなり、今ハ御名ヲを讀ミ添フ、又二柱神トと訓ベシ、○合ハ爲

夫婦ハ、美登能麻具波比志氏ト、合ハ字ハ、美登トと云ハ、當
 て訓ベシ、○以テ淡路洲淡洲爲胞トとある淡路嶋ハ行ハ
 るべしと云ハ、事上ハ一ハ云ハ、髻華山蔭ハも、淡洲ハの二
 字ハ行ハり、或説ハ、此一書ハ本書トと全く同トトシ、別ハ
 を以テるハり、舉ラれたるハ、二ハの洲ヲを胞トとシ、是ハ異ナるハ
 胞ハの下ハ、細注ハ、一云ハ、若シ、然ラば、本書ハの以テ淡路洲ハ爲
 とせむハも、先ハ、以テ淡洲爲胞生淡路洲ハと有リ、乃ハむハ、ま
 ぎれたるハも、やハとあり、○伊豫ハの下ハ、二名ハ、○子洲ハの
 上ハ、吉備トと云ハ、事ヲを略レたるハなり、○此ハ
 小舉ラれし洲ハの次第ハ、本書ハ同トト、

一書曰以礮馭盧嶋爲胞生淡

路次大日本豐秋津洲次伊
 豫二名洲次筑紫洲次吉備子
 洲雙生隱岐洲與佐度洲次
 越

一書曰以淡路洲為胞生大日
 以破馭盧嶋の古事記此紀上本章より天御柱國柱を
 建給ひ一基をふ為胞とありの傳の異ををり○
 さく此一書ハ淡路洲を御子の
 數不加へ大洲を除たる傳をり

本豐秋津洲次淡洲次伊豫二
 名洲次隱岐三子洲次佐度洲
 次筑紫洲次吉備子洲次大洲

淡洲ハ古事記此紀上一書より大八洲生坐り
 前以ふあり此事上さく越洲を除たる傳をり

一書曰陰神先唱曰妍哉可愛
 少男乎便握陽神之手遂為夫
 婦生淡路
 洲次蛭兒

陰神ハ伊弉册尊陽神ハ伊弉諾尊と訓事既ふ云々
 ○日本書紀訓考三卷
 ○四十八

て書格を上、一書ふ二神とあるふ同く、つゝある事
 をり、○唱ハ捨ベシ、○便ハ、加礼と誂ベシ、○握云云手
 握ハ、登利と誂ベシ、古事記^{高津段}、速總別、玉の御歌ハ、波
 斯多^{シダ}、互能^{ミノ}、久良波斯^{クラハシ}、夜麻袁^{ヤマヲ}、佐賀志美^{サガシメ}、登伊波^{トイハ}、迦伎加泥^{カキカネ}
 互^ミ、和賀互^{ワガミ}、登良須母^{トラスモ}、下十九^{シタウジウ}、四十四^{シヤジウ}、天皇寢疾不豫^{ミヤノオモクモク、シクワラヒニシヤク}、皇太
 子^{コノミヤノ}、向外不在^{マウヘニシテ}、驛馬召到^{スチマカサシケテ}、引入卧内^{イロコトニオコシテ}、執其手^{シクシテ}、詔曰^{ミコトノコト}、又廿卷^{ニヤクニ}、
 八^{ヤチ}、ふ、於是日羅^{コノヒニシテ}、迎來抱手^{ムカヒテ、オモツテ、テヲ}、廿八^{ニヤクニ}、卷八^{ヤチ}、ふ、天皇舉之携手^{ミヤノオモク、コトヲ、オモツテ}
 土佐^{ツシマ}、日記^{ニヒ}、十二月廿六日^{ニヒ、ツキノニ、ニヤクニ}、條^{ジョウ}、ふ、今の阿^ア、了^リ、を^ヲ、所^{トコロ}、きの^ノ、手^ヲ、取^リ、か
 ハ^ハ、一^{ヒト}、醉^{ソドモ}、こ^ト、こ^ト、ふ^ハ、心^{ココロ}、と^ト、け^ケ、す^ス、侍^シ、事^{コト}、一^{ヒト}、と^ト、出^デ、お^オ、り^リ、す^ス、を^ヲ、あ
 り^リ、と^ト、唯^{タダ}、手^ヲ、を^ヲ、取^リ、と^ト、云^フ、事^{コト}、を^ヲ、舉^ル、た^ツ、る^ル、あり^リ、又^{マタ}、女^メ、男^ヲ、の^ノ、手^ヲ、を^ヲ、取^リ

交^{カハ}、事^{コト}、古^コ、事^{コト}、記^キ、^{獲粟}、取^リ、其^ノ、衰^シ、祁^ヒ、命^ノ、將^シ、婚^ム、之^ヲ、美^ミ、人^ヲ、手^ヲ、源^ノ、氏^ノ
 物語^{モノガタリ}、卷^{マク}、ふ、い^ハ、う^ハ、と^ト、さ^サ、べ^ベ、ま^マ、と^ト、手^ヲ、を^ヲ、と^ト、つ^ツ、つ^ツ、つ^ツ、れ
 ば、是^レ、ハ、源^ノ、氏^ノ、君^ノ、の^ノ、權^ヲ、女^ヲ、の^ノ、手^ヲ、を^ヲ、取^リ、給^フ、ふ^ハ、を^ヲ、り^リ、又^{マタ}、手^ヲ、を^ヲ、と^ト、つ^ツ、つ^ツ、つ^ツ、我^ハ、今^ノ、一^{ヒト}、度^ニ、聲^ヲ
 を^ヲ、と^ト、ふ^ハ、聞^ク、せ^シ、給^フ、へ^ニ、と^ト、あ^ハ、り^リ、ハ、夕^タ、白^{ハク}、上^ノ、の^ノ、又^{マタ}、若^カ、紫^シ、い^ハ、と^ト、う^ハ、つ
 く^ク、う^ハ、思^フ、ひ^ハ、や^ハ、ら^ハ、る^ル、手^ヲ、を^ヲ、と^ト、つ^ツ、つ^ツ、つ^ツ、は^ハ、悔^ハ、ひ^ハ、は^ハ、是^レ、も^モ、源^ノ、氏^ノ
 の^ノ、手^ヲ、を^ヲ、取^リ、を^ヲ、と^ト、つ^ツ、つ^ツ、今^ノ、世^ノ、を^ヲ、あ^ハ、り^リ、男^ヲ、女^ヲ、手^ヲ、を^ヲ、お^オ、ま^マ、さ^サ、す^ス、と^ト、云^フ、事^{コト}
 あり^リ、又^{マタ}、万^{マン}、葉^ハ、七^{シチ}、丁^{テイ}、ふ^ハ、佐^サ、檜^ヰ、乃^ノ、熊^{クマ}、檜^ヰ、隈^カ、川^{カハ}、之^ノ、瀬^セ、乎^カ、早^{ハヤ}、君^ノ、之^ノ、手^ヲ
 取^リ、者^ヲ、將^シ、縁^ヰ、言^フ、堯^ノ、是^レ、ハ、男^ヲ、を^ヲ、眺^ミ、む^ム、と^ト、手^ヲ、を^ヲ、取^リ、を^ヲ、人^ヲ、と^ト、を^ヲ
 あり^リ、○^ニ、遂^ニ、い^ハ、捨^テ、る^ル、○^ニ、夫^レ、婦^ヲ、も^ト、登^リ、と^ト、誂^ベ、り^リ、此^レ、ハ、合^ハ、字^ヲ、あり^リ、す^ス、美^ミ
 む^ム、れ^レ、美^ミ、登^リ、能^ク、麻^マ、具^ヲ、波^ハ、比^ヒ、と^ト、誂^ベ、り^リ、○^ニ、淡^ハ、路^ヲ、洲^ヲ、の^ノ、事^{コト}、ハ、上^ノ、に^ニ、云^フ

り、此の淡洲と傳の異を
り、○蛭兒も上三丁より

日本書記訛考三卷終

明治十一年十一月六日版權免許
同十二年十月出版

註解并
出版人

新瀉縣千代

關四郎

越後國栢崎新助町



發賣人

北畠茂兵衛

東京日本橋區
通壹丁目拾五番地

